

## 春

菅田 忠志

スタートの春。あらたなる挑戦はじまる。

なんてかつこいい話ではない。シルバーカレッジの春休みを使って、ひとりイギリスへホームステイさせてもらう旅に出かけた女房の余波で、余儀なくも急ぎよ始まった主夫仕事。なにはさておき食べることを考えないと…。

まず2週間の献立を埋めることから考えてみた。朝は長年決まったパン食に、牛乳とハムやくたものなど適当に組み合わせたものですぐに埋まった。昼食は、月曜と水曜日は出勤日なので、三・四百円で社員食堂が利用できる。それ以外の昼も外出が多いので外食で済ませればよいだろう。日曜の昼も、家に居るときはつまそうな即席面に少し具を足して作れば済むことだ。

問題は夕食のおかずが埋まらない。空欄とにらめ

つこをしなからとりあえず「出来合い食購入」と書いてみる。翌日はどうする。また「出来合い食」と書くしかない。しかし、14個の空欄をこれで埋め尽くすわけにもゆかないだろう。

おそろおそろ「味噌汁」とか「肉じゃが」「カレーライス」などの文字をちりばめてゆくが、自分にとってはどれもまるで自信はなく、不安を抱えたまま挑戦するしかない。

その時、ふと「無免許運転」ということばが頭に浮かんできた。そうだ！ 教習本でも買ってくるかと本屋に行ってみた。いままでこの分野の前には立ったこともなかったが、結構いろいろな料理の本が並んでいる。

《4人分千円献立》《安い！早い！おいしい！で集めた今夜のおかず》だとか《ピンチのときの助っ人献立》というのもあった。どれも主婦のための実用本というところが。

そんな中から見つけた《基本のおかずをおいしく

作る《という副題がついた《お料理1年生》というのを見つけ、「これだ！」と飛びつき買って帰る。

早速ページをひもとき、写真付きの説明を読み、いろいろな料理の作りかたを追ってゆく。

「よし、今夜はこれでゆこう」と決め、レシピをメモに書き写し、意気揚々とスーパーへ。

調味料は買い置きのあるだろう。ジャガイモ、牛薄切り肉、にんじん、玉ねぎ、さやいんげん、と買い進み《しらたき》ときて足が止まる。

「しらたきって何？」探すがそれらしき表示のものも見つからない。よほど変わったものなのか？

仕方ない、そばにいたおばちゃんに聞いてみる。

「おばちゃん、肉じゃがに入れるしらたきって？」

「これちゃん、」えー。いとこのことか。あゝ、料理のでき具合が思いやられるが、「お母さんが旅行するのわいいけれど、お父さんは置いて行かないで」という娘に、今回はなんとしても認識を改めさせてやりたいものだ。

そうそう、明日は燃えないゴミ出しの日やった。

今夜のうちに袋に入れておかないと……。

旅から帰った女房に、「なんとかなったわ」と言えるか、もつ少し頑張らないと……。